

# MIHO MUSEUM

## 秋季展 ≪ MIHO GRANDAMA ≫

茶の湯の道具・名品展 初公開

- 茶碗 少庵井戸
- 黒楽茶碗 『釈迦』長次郎作
- 黒楽茶碗 『岩おこし』ノンコウ作
- 色絵金銀彩花菱蓮華文茶碗 仁清作
- 大燈国師 墨蹟『法語』 鎌倉末 赤星家伝来
- 砂張筒花入 千利休所持 前田家伝来
- 茶杓 銘『修学院』 千宗旦 松平不昧公伝来

## 秋季特別展 古陶の譜 中世のやきもの

### —— 六古窯とその周辺 ——

中世のやきものの魅力を展示・30年ぶりの大展示会・展示170点

- 1 六古窯とは 鎌倉時代～室町時代 (13～16世紀)  
瀬戸・常滑・越前・信楽・丹波・備前  
美濃・渥美・珠洲
- 2 その特徴は 中央集権制度の崩壊 武士の台頭 荘園解体  
農民・庶民の民具  
三種の神器 〈 壺・甕・鉢 〉 貯蔵  
生活・生命力・人と自然の合体・造形美
- 3 製作技術は 紐造り・輪積み・蹴り轆轤・篋文様
- 4 窯は 穴窯・分炎柱・大型化・松雑木

- ◎ 瀬戸 猿投からの伝承・山茶碗 良質の粘土  
陶祖・加藤藤四郎 水注・瓶子・四耳壺・狛犬  
中国・青磁・白磁・天目 瀬戸灰くすり
- ◎ 常滑 最大の生産量 海運で全国へ  
焼き締まりの良い粘土 壺・瓶に最適 経塚
- 渥美 国宝・灰釉秋草文壺  
袈裟禪文・蓮弁文 絵画的・美意識
- ◎ 越前 常滑と交流 三筋壺は極似  
近世は衰退 ねじたて轆轤技法
- 珠洲 須恵器 還元・炭化焼成  
タタキ技法 近世衰退
- ◎ 信楽 流通は近畿圏 四季の自然感を反映  
檜垣文・灰かぶり・焦げ・火色・石はぜ・下駄印
- ◎ 丹波 韓半島の影響 新羅の王子・天日槍  
自然釉・赤どべ・丹波の七化け・山柘壺 蛇窯
- ◎ 備前 須恵器・吉備津彦・インベ 福岡の市・大窯  
山土から田土へ 草戸千軒 近世の茶道具  
緋襷・焦げ・牡丹餅・胡麻・榎肌・窯印